

## 認知症サポーター養成講座基準

### <認知症サポーターとは>

認知症サポーター100万人キャラバンにおける「認知症サポーター養成講座」を受講した者を「認知症サポーター」と称する。

認知症サポーターは認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援し、だれもが暮らしやすい地域をつくっていくボランティアである。

認知症サポーターには講座実施主体者を通じて、全国キャラバン・メイト連絡協議会より、ボランティアのシンボルグッズである「オレンジリング」を授与する。

### <認知症サポーター養成講座の開催要件>

認知症サポーター養成講座の開催は、その目的・対象者などの位置づけを明確にし、そのうえで以下の開催要件を満たしているものとする。

#### ○実施主体者

都道府県・市町村等の自治体および全国規模の職域団体等とする。

NPO等への委託も可とするが、介護サービス事業者およびその団体は対象としない。

#### ○講師

・キャラバン・メイト

#### ○対象者

地域住民、職域、学校、広域の団体・企業等の従事者など。

#### ○実施主体者別の対象者分類

実施主体者	サポーター対象者
都道府県・市町村等の自治体	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民 住民組織（自治会、老人クラブ、子ども会など）、民生・児童委員、防災・防犯組織、介護者の会等の当事者組織、ボランティア団体、等</li><li>・地域の生活関連企業・団体活動等に携わる人 企業、団体（商工会議所、同業者組合、銀行等の金融機関、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、宅配業、タクシー業等）、公共サービス機関（行政サービス全般、警察、郵便局、消防等）、公共交通機関等</li><li>・学校関係者 小・中・高等学校生徒、教職員、PTA等</li></ul>
全国規模の職域団体・企業	全国的・広域的に事業展開を行っている団体・企業の所属組合員、従事者等

## 1 「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」と 「認知症キャラバン」

### ① 「痴呆」から「認知症」へ

認知症は、誰にでも起こりうる脳の病気に起因するものです。85歳以上では、4人に1人にその症状があるといわれており、認知症の人は全国で現在、約210万人、平成52年(2040年)には400万人程度まで増加すると予想されます。認知症の人は、記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果、周囲の人との関係が損なわれることもしばしば起こります。しかし身近な人の理解やちょっとした手助けがあれば、穏やかに住みなれた自宅での生活を続けることが可能です。

平成16年12月には「痴呆」から「認知症」へと呼称が変更されました。「痴呆」という言葉には、侮蔑的で、高齢者への尊厳を欠く表現であること、その実態を正確に表していないという問題がありました。背景には、「認知症」に対する知識不足や偏見があり、それが早期発見・早期診断等の機会を逃す原因ともなっていました。

### ② 認知症サポーターキャラバンでまちづくり

平成17年度に厚生労働省では「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」キャンペーンを開始しました。このキャンペーンの一環である「認知サポーター100万人キャラバン」(認知症サポーターキャラバン)事業は、認知症について理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する「認知症サポーター」を全国で100万人を目標に養成し、日本全国で「認知症になっても安心して暮らせるまち」を市民の手により、つくっていくことを目指して実施されてきました。

100万人の目標は、事業開始から約4年後、平成21年5月末に達成されましたが、厚生労働省により、平成26年度までに認知症サポーターを400万人誕生させるという新たな目標が掲げられています。認知症の人と認知症サポーターが1対1程度の数になれば、認知症サポーターがそれぞれの立場で役割を果たし、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を全国のいたるところで根づかせることになるでしょう。

### ③ 認知症サポーターの講師役「キャラバン・メイト」

「認知サポーターキャラバン」事業では、認知症サポーターの養成に先立ち、認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法等を市民に伝える講師役「キャラバン・メイト」を養成します。

キャラバン・メイトは「認知症サポーター養成講座」を開き、習得した知識や体験等を地域、職域、学校などにおいて市民に伝え「認知症サポーター」を養成します。

#### ④ 「認知症サポーター」は認知症の人と家族の応援者

「認知症サポーター養成講座」を受けた人は「認知症サポーター」となります。

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者です。

そのうえで自分のできる範囲で活動してもらいます。友人や家族に学んだ知識を伝える、認知症になった人や家族の気持ちを理解するよう努める、ということも認知症サポーターの活動のひとつです。また、商店・交通機関等、住民と身近に接する職場で働く人であれば、業務のなかで「認知症サポーター養成講座」で得た知識を生かす場面も多いでしょう。

認知症サポーターには「認知症の人を支援します」という意思を示す「目印」であるプレスレット（オレンジリング）がわたされます。

##### なぜ「オレンジリング」なの？

「柿色」をしたオレンジリングは、認知症サポーターの目印です。江戸時代の陶工・酒井田柿右衛門が夕日に映える柿の実の色からインスピレーションを得て作り出した赤絵磁器は、ヨーロッパにも輸出され世界的な名声を誇りますが、同じく“日本初”の「認知症サポーターキャラバン」のオレンジリングが、世界のいたるところで「認知症サポーター」の証として認められればとの思いからつくられました。なお温かさを感じさせるこの色は、「手助けします」という意味をもつといわれています。

##### 「認知症サポーターキャラバン」のマスコットは？

「ロバ隊長」は、「認知症サポーターキャラバン」のマスコットです。

認知症サポーターの「キャラバン」（隊商）の隊長として、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」への道のりの先頭を歩いています。ロバのように急がず、しかし一歩一歩着実に、キャラバンも進んでいきます。

※「認知症サポーターキャラバン」の推進ツール等にぜひ、ロバのイラストをご使用ください。実施主体である自治体・企業等の事務局には、ロバの画像データをお送りすることができますので、ご入り用の際には、全国キャラバン・メイト連絡協議会までご連絡ください。

